



校報 ひたみちっ子

校 訓

「強く 賢く 美しく」

浜坂南小学校第63号

令和6年1月12日

太く、大きく、集中して… ～「校内書き初め大会」～

1月11日（木）3校時に「校内書き初め大会」を実施しました。

新しい年を迎えて、まっさらの気持ちで真剣に「書くこと」に向き合う…それが、「書き初め」です。

日本人は古くから「読み・書き・そろばん」、すなわち「読むこと」「書くこと」「計算すること」を大切にして勉強を続けてきました。そのおかげですばらしい力を身につけ、かしこく生きてこられたと思います。今回はその中でも特に「書くこと」にみんなでチャレンジしました。

今回は特別に、大庭地区公民館長で、書道教室の先生もしておられる ■■■ さんにお越しいただき、ご指導いただきました。

この日は、全校生が体育館に集合し、一人一人が ■■■ 館長さんにご指導いただいた通りに、集中して静かな緊張感の中で、一生懸命書写に取り組みました。

<子どもたちの書いた字>

学年	書いた字
1年	お正月
2年	新しい年
3年	生きる力
4年	元気な声
5年	心を開く
6年	希望の朝



■■■ 館長さんの実演も…



BGM「春の海」の流れる中で集中して…

「上手に書けたと思います。」「きれいに書けてうれしかったです。」…と子どもたち。終わった後、体育館を出ていく時にお辞儀をして出ていく子どもたちもいました。

■■■ 館長さんも、「子どもたちは上手に大きくのびのびとした字を書いていたね。」「楽しかったです。」「できれば来年も呼んでください。」と感想を話しておられました。

とってもよい「書き初め大会」になったと思います。■■■ 館長さん、本当にありがとうございました。

子どもたちの書き初め作品は、「校内書き初め展」として、15日（月）～19日（金）まで、2階ふれあいルームに展示する予定です。ご都合がつけばぜひ見にお越しください。（校長）

給食で牛乳を飲むのはなぜ？～「チョコちゃんに叱られる」を見て～

1月5日（金）、NHKのテレビ番組「チョコちゃんに叱られる」を見ていたら、「給食で牛乳を飲むのはなぜ？」という問いが出され、その答えが意外なものだったので、その概要をご紹介します。

答え…「アメリカ大統領だったフーバーさんが心配になっちゃったから。」

＜答えの概要＞

戦後すぐの栄養摂取量は、大人ですら1日1200kcalほどで、戦前と比べると半分ほど。日本国民全体が栄養失調と言われるほどの状態だったそうです。

それを心配していた元アメリカ大統領フーバー氏が、この栄養不足の問題を何とかしようと考え、「他国の飢餓を救うのは戦勝国たるアメリカの役割である。」とアメリカ国民に訴え、「まず学校給食をスタートさせる」という施策をGHQ司令官マッカーサー氏に進言したそうです。フーバー氏にはこの学校給食の施策が成功すればアメリカ国民にその功績をアピールできるという政治的な思惑もあったとか。

マッカーサー氏からこの学校給食の責任者を任されたのが、GHQ公衆衛生局長で医師のクロフォード・F・サ姆斯氏という人物です。サ姆斯氏は「食糧不足で一番苦しむのは社会の弱者だ。中でも深刻な影響を受けるのは育ち盛りの子どもである。」と訴えて、日本政府に協力を要請したそうです。しかし、当時の農水省からは「食糧調達は無理。」「その世話をする教師たちも気の毒。」「予算も全くない。」との後ろ向きの回答でした。

サ姆斯氏はそれでもあきらめず、彼らを説得するために食糧調達に奔走しました。その頃、米中心の食生活が当たり前だった日本では、炭水化物に偏った栄養摂取が一般的で、動物性たんぱく質の摂取が不足していました。そこに、アメリカから「国内で消費しきれないほどの牛乳が生産されている。」「保存のため脱脂粉乳にしたものがたくさん余っている。」という情報がもたらされました。当時の日本は冷蔵庫などの施設がほぼない状態だったので、この常温で長期保存できる脱脂粉乳は最適だったのです。アメリカでは余剰在庫が処分できるし、日本が格安で買い上げてくれれば給食にも出して互いにウィンウィンだったということです。

日本の官僚たちもようやく首を縦にふって、1946年12月には学校給食の実施が正式決定。1947年1月には、全国の都市部で給食がスタート。脱脂粉乳がメニューに組み込まれた給食を食べた子どもたちは1年も経たないうちにどんどん体が大きくなって、栄養状態は改善されていったそうです。やがて脱脂粉乳は牛乳に置き換えられて、現在の給食の形になったそうです。



（解説：東京家政大学 岩崎美智子教授より）

私は、給食・牛乳に、このようないきさつがあったことを初めて知りました。改めて子どもたちとともに、感謝していただきたいと思います。（校長）